201224053B (2/2)

厚生労働科学研究費補助金　障害者対策総合研究事業

自殺の原因分析に基づく効果的な自殺防止対策の確立に関する研究

平成22年度～24年度　総合研究報告書　2/2

研究代表者　加我牧子

平成25（2013）年3月

201224053B（2/2）

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業

自殺の原因分析に基づく
効果的な自殺防止対策の確立に関する研究

平成22年度～24年度　総合研究報告書　2/2

研究代表者　加我　牧子

平成25（2013）年3月

目　次

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表

Ⅳ．研究成果の刊行物・別刷

Ⅲ．研究成果の刊行に関する一覧表

別紙4

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
竹島 正	うつ病と自殺防止対策.	日本精神保健福祉士養成校協会編集	新・精神保健福祉士養成講座 2 精神保健の課題と支援	中央法規出版	東京	2012	pp224-228
竹島 正	自殺の予防.	山口徹・北原光夫・福井次矢　総編集	今日の治療指針 私はこう治療している	医学書院	東京	2012	pp863-864
竹島 正	年間 3 万人死亡・自殺大国ニッポンの現状と将来対策.	西村周三監修，ヘルスケア総合政策研究所編	医療白書	2011年度版．日本医療企画	東京	2011	pp18-26
竹島 正	自殺対策基本法.	内閣府　編	現代精神医学事典	弘文堂	東京	2011	pp409
立森久照，竹島 正	平成 21 年度自殺対策強化のための基礎資料.	精神保健福祉白書編集委員会＝編集	精神保健福祉白書2011年版 岐路に立つ精神保健医療福祉－新たな構築を目指して.	中央法規出版	東京	2010	pp33
松本俊彦	自殺対策のこれまでとこれから.	井原　裕	こころの科学 増刊号「精神科臨床はどこへ行く」	日本評論社	東京	2011	115-120
松本俊彦	思春期編：リストカットが続いている［自傷］	山登敬之・斎藤　環	入門 子どもの精神疾患：悩みと病気の境界線	日本評論社	東京	2011	67-72
松本俊彦	9. 通院中の患者が自殺企図した後に初めて診察するときの精神科主治医の対応.	精神科治療学編集委員会	精神科治療学 vol. 26 増刊号「神経症性障害の治療ガイドライン」	星和書店	東京	2011	342-347
松本俊彦	10. 通院中の患者の自傷行為を発見したときの精神科主治医の対応.	精神科治療学編集委員会	精神科治療学 vol. 26 増刊号「神経症性障害の治療ガイドライン」	星和書店	東京	2011	348-353

松本俊彦	2-1-5 今後の自殺対策における課題と関連学会の果たす役割.	精神保健福祉白書編集委員会	精神保健福祉白書2012年度版: 東日本大震災と新しい地域作り	中央法規出版	東京	2011	38
高橋祥友	「自殺総合対策大綱」の見直しおよびゲートキーパー制度は、自殺者3万人に歯止めをかけられるか.	ヘルスケア総合政策研究所・編	医療白書2012	日本医療企画		2012	pp.218-226
高橋祥友	わが国の自殺の実相と予防のための基礎知識；精神科医の立場から.	生越照幸・編	自殺問題と法的支援；法律家による支援と連携のこれから	日本評論社		2012	pp.1-37
高橋祥友	自殺のポストベンション.	樋口輝彦、市川宏伸、神庭重信、朝田隆、中込和幸・編	今日の精神疾患治療指針	医学書院		2012	pp.834-835
高橋祥友	自殺と幻覚妄想.	堀口淳・編	「脳こころのプライマリケア6 幻覚と妄想」	シナジー		2011	pp.430-440
高橋祥友	精神疾患は自殺の原因となり得るか？	日本産業精神保健学会・編	「ここが知りたい職場のメンタルヘルスケア」	南光堂		2011	pp.5-8
高橋祥友	自殺のリスク評価.	笠井清登・編	「精神科研修ノート」	診断と治療社		2011	pp.134-136
高橋祥友	自殺.	日本ストレス学会・編	「ストレス科学事典」	実務教育出版		2011	pp.390-391
高橋祥友	ポストベンション；医療現場でのリスクマネジメント.	萩原弘一・編	「呼吸器研修ノート」	診断と治療社		2011	pp.177-181
高橋祥友	うつ状態と自殺.	萩原弘一・編	「呼吸器研修ノート」	診断と治療社		2011	pp.182-187

高橋祥友	自殺の動向.	泉孝英・編	「ガイドライン外来診療2011」	日経メディカル開発		2011	pp.562-563
高橋祥友	自殺とその予防.	石丸昌彦・編	「今日のメンタルヘルス」	放送大学教育振興会		2011	pp.223-238
高橋祥友	マスコミと自殺防止.	高久史麿，猿田亨男，北村惣一郎，福井次矢・監修	「家庭医学大全科 六訂版」	法研		2010	pp.774
高橋祥友	希死念慮・自殺企図.	武田雅俊，鹿島晴雄・編	「POCKET精神科」	金芳堂	京都	2010	pp. 174-181
高橋祥友	自殺.	精神医学講座担当者会議・編	「気分障害治療ガイドライン第２版」	医学書院	東京	2010	pp.201-209
高橋祥友	自殺.	精神医学講座担当者会議・編	「気分障害治療ガイドライン第２版」	医学書院	東京	2010	pp.345-347

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Moriyama K, Kaga M	Menatl health care efforts for the public after the Great East Japan Earthquake. “Guide to good mental health for those affected by natural disasters”	Brain & Development	35 巻 3 号	201-208	2013
岸野美由紀、武内典恵、小沢浩、井上祐紀	重症心身障害児を含む障害児の母親の抑うつと予防的支援の検討	日本重症心身障害学会誌	37 巻 3 号	401-406	2012
森山花鈴	我が国における自殺対策と自殺未遂者支援について	救急医学	36 巻	:860-863	2012
川野健治，竹島正，白神敬介，的場由木	自殺予防の枠組みと被災地の地域精神保健	精神保健研究	58	35-41	2012

眞崎直子，小西昌子，田中貴子，宇治光治，竹島 正	八女地域におけるうつ自殺予防対策‐「眠れてる？食べれてる？体大丈夫？」の地域づくり—	こころの健康	27(1)	53-61	2012
竹島 正，稲垣正俊	自殺総合対策大綱の見直し～提言はどのように反映されたか～.	Depression Frontier	10(2)	45-50	2012
竹島 正	自殺総合対策大綱の見直し‐今後の学術団体・研究機関の取組を含めて‐	日本社会精神医学会雑誌	21(4)	586	2012
竹島 正	[座談会]不眠を切り口としたうつ病の早期診断と自殺予防.	睡眠医療	6(2)	279-290	2012
Orui, M., Kawakami, N., Iwata, N.,Takeshima, T., Fukao, A.	Lifetime prevalence of mental disorders and its relationship to suicidal ideation in a Japanese rural community with high suicide and alcohol consumption rates.	Environmental Health and Preventive Medicine.	16(6)	384-389	2011
竹島 正	自殺予防と精神保健医療の役割.	精神神経学雑誌	113(1)	68-69	2011
竹島 正	自殺対策における自殺とは何か.	精神神経学雑誌	113(1)	70-73	2011
竹島 正，宇田英典，眞崎直子	地域のメンタルヘルスの問題はどのように変わっているのですか？	公衆衛生	75(4)	321-325	2011
竹島 正	自殺予防と地域づくり.	こころのけんこう	38	2-13	2011
竹島 正	わが国の自殺対策・自殺学の方向－大原先生の業績を振り返って.	日本社会精神医学会雑誌	20(2)	138-143	2011
竹島 正，松本俊彦、川野健治，稲垣正俊，勝又陽太郎	自殺予防総合対策センターの活動.	産業精神保健	19(3)	218-223	2011
竹島 正，樋口輝彦	（質疑応答）自殺者と精神疾患罹患の関係.	日本医事新報	4565	56-57	2011

竹島 正	（書評）仰うつと自殺の心理学　臨床心理学的アプローチ　坂本真士著.	精神療法	37(4)	492-493	2011
須賀万智，柳沢裕之，山内貴史，立森久照，竹島 正	医療圏レベルでみた自殺死亡と地域特性に関する分析.	日本公衆衛生学会総会抄録集	58(10) 巻:70	146	2011
山内貴史，竹島 正	（質疑応答）飛び込み自殺と日時の関係.	日本医事新報	4571	55-56	2011
有田宏美，上田 正，大塚淳子，禱久孝一，生水裕美，管 美千世，竹島 正，高橋信子，新里宏二，行岡みち子	多重債務者相談の手引き～「頼りになる」相談窓口を目指して～.	金融庁・消費者庁			2011
竹島　正	公衆衛生の精神保健、精神保健医療のこれから.	公衆衛生	76(3)	237-241	2012
赤澤正人，松本俊彦，勝又陽太郎，廣川聖子，立森久照，竹島 正	若年者の自傷行為と過量服薬における自殺傾向と死生観の比較.	自殺予防と危機介入	32 (1)	34-40	2012
赤澤正人，竹島 正	自殺と自殺予防対策の現状－働き盛りの人の自殺を中心に－.	地方公務員安全と健康フォーラム	75	9-12	2010
竹島 正	精神保健と地域づくりのつながり　自殺予防を糸口に.	公衆衛生	74(11)	950-954	2010
Hirokawa S, Matsumoto T, Katsumata Y, Kitani M, Akazawa M, Takahashi Y, Kawakami N, Watanabe N, Hirayama M, Kameyama A,	Psychosocial and psychiatric characteristics of suicide completers with psychiatric treatment before death: A psychological autopsy study of 76 cases.	Psychiatry and Clinical Neurosciences	66	292-302	2012

Hirokawa S, Kawakami N, Matsumoto T, Inagaki A, Eguchi N, Tsuchiya M, Katsumata Y, Akazawa M, Kameyama A, Tachimori H, Takeshima T	Mental disorders and suicide in Japan: A nation-wide psychological autopsy case–control study.	Journal of Affective Disorders	140	168-175	2012
Matsumoto T, Matsushita S, Okudaira K, Naruse N, Cho T, Muto T, Ashizawa T, Konuma K, Morita N, Ino A	Sex differences in risk factors for suicidality among Japanese substance use disorder patients: Association with age, types of abused substances, and	Psychiatry and Clinical Neurosciences	66	390-396	2012
亀山晶子, 勝又陽太郎, 松本俊彦, 赤澤正人, 廣川聖子, 小高真美, 竹島正	死亡時に無職であった自殺既遂者の類型分類: 心理学的剖検による検討.	精神医学	54	791-799	2012
松本俊彦	2. うつ病治療～ベンゾジアゼピンの功罪.	医薬ジャーナル	48	1139-1142	2012
松本俊彦	アルコール・薬物問題と自殺予防.	治療.	94	515-520	2012
松本俊彦	物質使用障害と自傷・自殺.	精神科	20	257-262	2012
松本俊彦	自殺の危険が高い人に対する治療の原則.	医学のあゆみ	242(3)	243-247	2012
松本俊彦	自殺予防とヘルスプロモーション.	小児内科	44(8)	1333-1337	2012
松本俊彦	自殺対策から見えてくる精神科医療のこれから.	日本社会精神医学雑誌	21	339-343	2012
松本俊彦	第 10 章 1. 自傷・自殺の危険の高い状況について.	精神科治療学	27 増刊号「気分障害治療マニュアル」	321-326	2012
松本俊彦	いじめと自傷行為～若者の自殺予防のために大人が心得ておくべきこと.	現代思想	12 月号臨時増刊号	218-228	2012

松本俊彦	第 4 章 自傷――死への迂回路.	季刊 Be!	増刊号 No. 21	47-54,	2012
松本俊彦	Ⅲ. 主な疾患における精神療法. 自傷行為に対する精神療法.	臨床精神医学	41 増刊号	287-294	2012
松本俊彦	過量服薬による自殺企図の理解と予防・危機介入.	日本精神科病院協会雑誌	31(10)	1031-1039	2012
Aiba M, Matsui Y, Kikkawa T, Matsumoto T, Tachimori H	Factors influencing suicidal ideation among Japanese adults: From the national survey by the Cabinet Office.	Psychiatry and Clinical Neurosciences	65	468-475	2011
Matsumoto T, Azekawa T, Uchikado T, Ozaki S, Hasegawa N, Takekawa Y, Matsushita S	Comparative study of suicide risk in depressive disorder patients with and without problem drinking.	Psychiatry and Clinical Neurosciences	65	529-532	2011
Kameyama A, Matsumoto T, Katsumata Y, Akazawa M, Kitani M, Hirokawa S, Takeshima T.	Psychosocial and psychiatric aspects of suicide completers with unmanageable debt: A psychological autopsy study	Psychiatry and Clinical Neurosciences	65	592–595	2011
赤澤正人, 松本俊彦, 勝又陽太郎, 木谷雅彦, 廣川聖子, 亀山晶子, 横山由香里, 高橋祥友, 川上憲人, 渡邉直樹, 平山正実, 竹島正	死亡時の職業の有無でみた自殺既遂者の心理社会的特徴：心理学的剖検による76 事例の検討.	日本社会精神医学会雑誌	20(2)	82-93	2011
関口隆一, 塚本哲司, 深井美里, 菊池礼子, 岡崎直人, 山川敬子, 森宏美, 黒田安計, 杉山 一, 松本俊彦	精神科救急医療電話相談における自殺企図切迫例への対応.	埼玉県医学会雑誌	46(1)	291-296	2011
松本俊彦	子どもの自殺.	小児内科	43(5)	909-914	2011
松本俊彦	思春期の自傷行為―その実態と予防を中心に―.	精神科治療学	26 (5)	553-559	2011

松本俊彦	嗜癖問題と自傷・自殺.	アディクションと家族	27	297-301	2011
赤澤正人, 松本俊彦	労働者におけるアルコールの問題と自殺	産業精神保健	19(2)	93-98	2011
松本俊彦	境界性パーソナリティ障害の自己破壊的行動への対応.	精神科治療学	26(9)	1135-1142	2011
木村勝智, 松本俊彦	日常診療ケーススタディ メンタルヘルス編～見逃さないで! あなたも診ている心の病気～CASE 8「この世から消えてしまいたい人」への対応: プライマリケアで診る自殺念慮.	日本医事新報	4569	36-40	2011
松本俊彦	物質使用と暴力および自殺行動との関係.	日本アルコール・薬物医学会雑誌	45(1)	13-24	2010
松本俊彦	地域保健従事者のための精神保健の基礎知識: 自殺問題から明らかになる精神科医療・精神医学の課題.	公衆衛生	74(4)	325-329	2010
松本俊彦	アルコール・薬物の乱用・依存と自殺予防.	日本精神科病院協会雑誌	29(3)	251-257	2010
松本俊彦	地域保健従事者のための精神保健の基礎知識: 自殺問題から明らかになる地域保健の課題1.	公衆衛生	74(5)	419 - 422	2010
松本俊彦	自傷と自殺～「死にたいくらい」のつらさを生き延びる子どもたちの隠された傷.	月刊少年育成	650(5)	16-21	2010
松本俊彦	リストカットを超えて～「故意に自分の健康を害する行為」をどう捉えるか～.	青年期精神療法	7(1)	4-14	2010
松本俊彦	青年期の自殺とその予防―自傷行為に注目して―.	ストレス科学	24(4)	229-238	2010

松本俊彦	教育講演Ⅲ：職場における自殺予防～アルコール問題と自殺.	産業精神保健	18(4)	296-300	2010
赤澤正人，松本俊彦，勝又陽太郎，木谷雅彦，廣川聖子，高橋祥友，平山正美，亀山晶子，竹島正	アルコール関連問題を抱えた自殺既遂者の心理社会的特徴；心理学的剖検を用いた検討.	日本アルコール・薬物医学会雑誌	45(2)	104-118	2010
赤澤正人，松本俊彦，勝又陽太郎，木谷雅彦，廣川聖子，高橋祥友，川上憲人，渡辺直樹，平山正実，竹島 正	死亡1年前にアルコール関連問題を呈した自殺既遂者の心理社会的特徴.	精神医学	52(6)	561-572	2010
赤澤正人，松本俊彦，勝又陽太郎，木谷雅彦，廣川聖子，高橋祥友，川上憲人，渡辺直樹，平山正実，亀山晶子，横山由香里，竹島 正	死亡時の就労状況からみた自殺既遂者の心理社会的類型について～心理学的剖検を用いた検討～.	日本公衆衛生雑誌	57(7)	550-559	2010
赤澤正人，松本俊彦，立森久照，竹島正	アルコール関連問題を抱えた人の自殺関連事象の実態と精神的健康への関連要因.	精神神経学雑誌	112(8)	720-733	2010
赤澤正人，竹島正，松本俊彦，江口のぞみ	自殺の心理学的剖検からみたこれからの自殺対策.	保健の科学	52(7)	441-446	2010
Katsumata Y, Matsumoto T, Kitani M,Akazawa M, Hirokawa S, Takeshima T	School problems and suicide in Japanese young people.	Psychiatry and ClinicalNeurosciences	64(2)	214-215	2010
勝又陽太郎	自殺予防対策の発展に向けて―心理学的剖検の実践.	週刊医学界新聞	2906	6	2010
勝又陽太郎	若年自殺既遂者の心理社会的特徴と予防対策.	日本社会精神医学会雑誌	19(1)	58-62	2010
勝又陽太郎，竹島正	心理学的剖検.	臨床精神医学	39(11)	1425-1429	2010

亀山晶子，　松本俊彦，赤澤正人，勝又陽太郎，木谷雅彦，廣川聖子，竹島 正	負債を抱えた中高年自殺既遂者の心理社会的特徴.	精神医学	52(9)	903-907	2010
Suzuki H, Hikiji W, Tanifuji T, Abe N, Fukunaga T.	Mediccoleagal death of homeless persons in Tokyo Metropolis over 12 years (1999-2010).	Legal Medicine	15(3)	126-133	2013
高橋祥友	自殺の危険の評価、対応、治療.	作業療法ジャーナル	46(11)	1501- 1505	2012
高橋祥友	日・米・仏の医師・歯科医師の自殺率.	日本医事新報	No.4620	pp.59	2012 年 11 月 10 日号
高橋祥友	自殺のリスク評価.	医学のあゆみ	242(3)	239-242	2012
高橋祥友	自死遺族のケア.	精神療法	38(1)	64-69	2012
高橋祥友	自殺予防の基礎知識；自殺のリスク評価に焦点を当てて.	分子精神医学	12(1)	62-64	2012
高橋祥友	自殺のポストベンション.	産業精神保健	19(4)	285-289	2011
高橋祥友	自殺遺族に対する治療マネジメント.	精神科治療学	26(10)	314-318	2011
高橋祥友	子どもの自殺.	心と社会	42(2)	75-80	2011
高橋祥友	「うつ病」をめぐる混沌.	精神科看護	38(6)	5-10	2011
高橋祥友	自殺のリスク評価.	臨床精神医学	第39巻2010年増刊号	pp.121-124	2011
高橋祥友	自殺予防と危機介入.	臨牀と研究	88(3)	335-339	2011
高橋祥友	自殺予防の基礎知識.	大学と学生	第85号	22-29	2010
高橋祥友	うつ病対策からみたこれからの自殺予防対策.	保健の科学	52(7)	447-451	2010

高橋祥友	子どもの自殺予防.	月刊 少年育成「特集 中高生の自死」	2010年5月号	8-14	2010
高橋祥友	自殺.	小児科臨床「特集 小児科医が知っておくべき思春期の心」	73(1)	89-94	2010
高橋祥友，山本泰輔	自殺発生後の院内対応.	日精協誌	29(3)	28-33	2010
高橋祥友	11年連続で年間3万人以上が自殺する日本の現状.	日医雑誌	138(11)	2292	2010
成重竜一郎，川島義高，齊藤卓弥，大久保善朗	児童・青年期の自殺未遂者の原因・動機に関する検討.	児童青年精神医学とその近接領域	53(1)	46-53	2012
成重竜一郎，川島義高，大高靖史，齊藤卓弥，大久保善朗	東日本大震災後における自殺未遂者の特徴.	臨床精神医学	41(9)	1255-1261	2012
Ataru Omori, Amane Tateno, Takashi Ideno, Hidehiko Takahashi, Yoshitaka Kawashima, Kazuhisa Takemura, Yoshiro Okubo	Changed implicit attitudes towards schizophrenia: influence of contact with schizophrenia patients on clinical residents.	BMC Psychiatry	12	205	2012
Kawashima Y, Ito T, Narishige R, Saito T, Okubo Y	The Characteristics of Serious Suicide Attempters in Japanese Adolescents – Comparison Study between Adolescents and Adults-.	BMC Psychiatry	12	191	2012
齊藤卓弥	子どもの気分障害.	小児科臨床(0021-518X)	64巻5号	Page845-852	2011
宇佐美政英、齊藤万比古，傳田健三，斉藤卓弥，岡田俊，松本英夫，山田佐登留	児童・青年期におけるSSRI/SNRIの使用実態と安全性に関する全国調査.	児童青年精神医学とその近接領域	52巻1号	Page21-35	2011.02
川島義高	看護師だからできる！救急搬送された自殺未遂患者への声かけ・対応	Expert Nurse	Vol.26,No.2	28-31	2010

川島義高，伊藤敬雄， 成重竜一郎， 大高靖史，齊藤卓弥，大久保善朗	思春期の自殺 救命救急センターでの取り組み.	臨床精神医学	39（11）	1397-1404	2010
粟田主一	生活困窮者の自殺とその予防.	日本精神神経学雑誌			（印刷中）
粟田主一	災害時における高齢者の精神科医療の課題	老年医学	50	301-304	2012
粟田主一	災害精神医療の現状：老年精神医学領域の問題点と課題	老年精神医学雑誌	23	204-208	2012
粟田主一	後期高齢者に多い疾患，うつ病.	治療	92(1)	53-56	2010
粟田主一	高齢者のうつ・閉じこもりを防ぐために.	健康づくり	382	11	2010
粟田主一，櫻田久美	一人暮らしの女性高齢者の幻覚妄想状態.	精神医療	58	39-46	2010
森川すいめい，池田亜衣，奥田浩二，中村あずさ	現代の日本の貧困／生活困窮者のメンタルヘルス，路上生活者研究から見えてきたこと.	心と社会	142	60-65	2010
森川すいめい，樋口進	アルコール・薬物関連障害の薬物療法.	医学のあゆみ	233	1149-1153	2010
Yamauchi T, Fujita T, Tachimori H, Takeshima T, Inagaki M, Sudo A.	Age-adjusted relative suicide risk by marital and employment status over the past 25 years in Japan.	J Public Health			in press.
Yip PSF, Chen YY, Yousuf S, Lee CKM, Kawano K, Routley V, Park BCB, Yamauchi T, Tachimori H,	Towards a reassessment of the role of divorce in suicide outcomes: evidence from five pacific rim populations.	Soc Sci Med	75（2）	358-366	2012

山内貴史，竹島正，稲垣正俊	1998 年以降のわが国における自殺死亡の季節変動.	公衆衛生	76	574-577	2012
山内貴史，竹島正	わが国の自殺の現状：要因別にみた自殺死亡	医学のあゆみ	242	223-227	2012
山内貴史，立森久照，竹島　正	人口動態統計からみる自殺者の経年変化：中高年男性に焦点をあてて.	日本社会精神医学会雑誌	21	547-551	2012
山内貴史，竹島正	性別の自殺関連行動の特徴および自殺対策について.	ESTRELA	226	15-20	2013
稲垣正俊，大槻露華，竹島 正	自殺とうつ状態.	治療　うつ状態を理解する	93(12)	2457-2460	2011
山内貴史，藤田利治，立森久照，竹島正，稲垣正俊	自殺死亡に対する職業および配偶関係の相乗的関連.	厚生の指標.	58(11)	8-13	2011

Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷

第4節 うつ病と自殺防止対策

国の政策として、わが国のうつ病対策、自殺対策の歴史は浅く、いずれも10年くらいにすぎないが、それらを振り返ると多くの学ぶべきことがある。本節ではそれらを振り返り、今後の精神保健発展の課題とする。

1 うつ病対策の経緯

国の政策としてのうつ病対策が始まったのは、患者調査における気分障害の受療患者数の増加が明らかになり、また1998（平成10）年に自殺が急増して3万人を超えた後である。具体的には、2002（平成14）年に**自殺防止対策有識者懇談会**がその報告書**「自殺予防に向けての提言」**を公表してからである。この提言は、自殺のリスクが高い人を早期に発見し、危機介入するという取組み（ハイリスクアプローチ）により、目に見える自殺予防の効果が期待できると考えられること、自殺死亡者にはうつ病に罹患している者が多いこと、うつ病は治療法が明らかになっていること、新潟県松之山町等の地域では、うつ病等の問題をもつ者への対策により自殺予防に一定の効果をあげていることから、自殺予防の成果を期待できる方法として、早急にうつ病等への対策の充実に取り組むべきであると提言した。これをもとに厚生労働省は、「地域におけるうつ対策検討会」を開催して、うつ対策関係者のうち、都道府県・市町村職員を対象とした「うつ対策推進方策マニュアル」と、保健医療従事者を対象とした「うつ対応マニュアル」を2004（平成16）年にまとめた。わが国でうつ病対策が政策として進められるようになったのはこれ以降であって、現在まででも10年足らずの歴史しかないことを忘れてはいけない。「うつ病対策ばかりやっていたので自殺対策は成果が上がらなかったのだ」という声が聞かれることもあるが、政策的にみると、うつ病対策はやっと緒についたばかりというのが実態である。うつ病対策が、政策として発展していくには、一般診療科と精神科の連携によるうつ病患者の発見と支援等の実証的な研究を重ね、それらの成果を対策に活用していくことが必要であろう。

うつ病対策の特徴は、その裾野が広いことである。例えば、うつ病とアルコール依存症についていえば、自殺者に占めるアルコール依存症の割合はうつ病に次いで高く、特にうつ病を合併した場合は自殺のリスクを高めるとされ、自殺、うつ病、アルコール依

存症は**死のトライアングル**ともいわれる[4) 5)]。また、うつ病患者にもアルコール依存の合併は多いとされ、うつ病は一般国民にも広く知られている精神疾患であることから[6)]、うつ病がこころの健康問題の理解を深める入口に立つ可能性は高い。その意味でJCPTD（うつ病の予防・治療日本委員会、Japan Committee for Prevention and Treatment of Depression）等による今後の啓発活動の発展には期待が大きい。JCPTDは、1975（昭和50）年に**世界精神医学会（WPA）**が**WHO**（世界保健機関）とともに立ち上げた「うつ病の予防と治療のための国際委員会（ICPTD）」に呼応して、わが国に組織された。2010（平成22）年に一般社団法人格を取得し、一般開業医、プライマリーケアおよび精神科・心療内科以外の診療科医で、うつ病および関連の疾患に関心を抱く医師・コメディカルスタッフへの情報提供、また、うつ病など軽症の心理的障害に悩む一般市民の人々に適切なアドバイス・支援の方法を伝えることを活動の目的としており、毎年10月、第一土曜日を「うつ病を知る日」として市民公開講座等を開始した[7)]。また最近は、企業のこころの健康への取り組みを推進する準備を進めている。

2 | 自殺防止対策の経緯

わが国の自殺率は明治中期からの100年以上にわたって人口10万対15〜20で推移してきており、諸外国と比べても高い水準であったと考えられるが、自殺防止対策が、国の政策として取り上げられるようになったのは1998（平成10）年の自殺死亡の急増以降の、ごく最近である。本節では、1998（平成10）年以降の国の自殺対策の展開を、3期に分けてまとめる[8)]。

第1期（1998（平成10）〜2005（平成17）年）は、厚生労働省中心の取組みである。自殺の急増を受けて、2000（平成12）年には健康日本21の「休養・こころの健康づくり」の一つとして「自殺者の減少」があげられ、2001（平成13）年には自殺対策事業が予算化された。そして2002（平成14）年には、自殺対策有識者懇談会の報告書「自殺予防に向けての提言」がまとめられた。この提言には、世界保健機関（WHO）によ

4）松下幸生・樋口進「アルコール関連障害と自殺」『精神神経学雑誌』第111巻第10号，1191〜1202頁，2007.
5）全日本断酒連盟『自殺予防とアルコール』2010.
6）国立精神・神経センター精神保健研究所精神保健計画研究部「こころとからだの健康についての国民意識の実態に関する調査」結果まとめ，2007.
7）JCPTD（うつ病の予防・治療日本委員会）ホームページ
http://www.jcptd.jp/（最終アクセス2011年12月24日）
8）高橋祥友・竹島正編『自殺予防の実際』永井書店，2009.